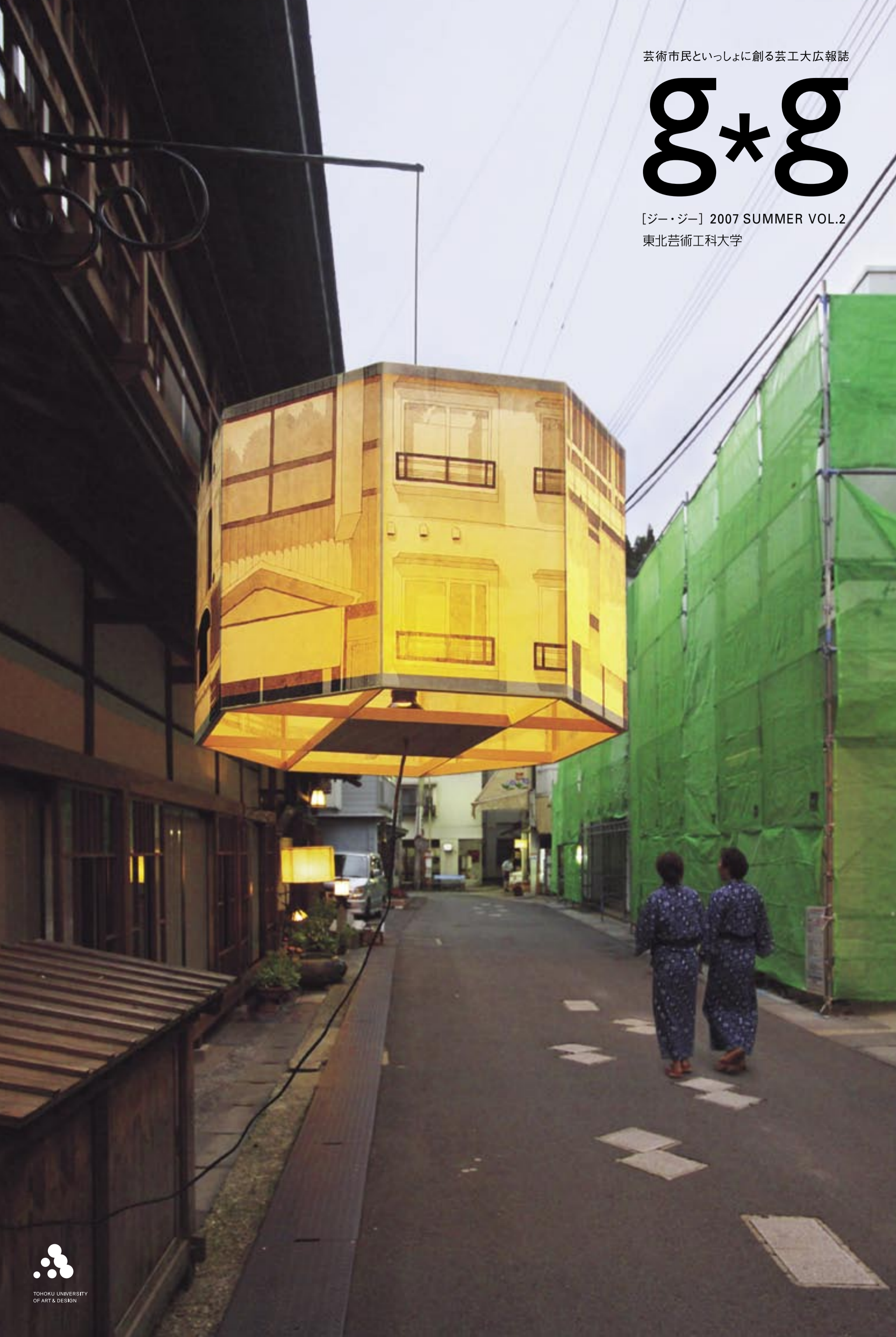


芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌

g*g

[ジー・ジー] 2007 SUMMER VOL.2
東北芸術工科大学



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN



HEADLINE

歴史ある温泉街にアートを灯す、肘折温泉〈灯笼〉プロジェクトの夏。

開湯1200年の歴史を誇る肘折温泉。その昔ながらの情緒あふれる温泉街が、今年はいつとも違う夏を迎えています。夜の温泉街に幻想的な灯笼の光が……。

東北の大地から日本の再生をめざそうと東北芸術工科大学が掲げる「東北ルネサンス」運動も、大学開学15年を機に第2章に入り、「東北ルネサンス・プロジェクト」として展開しています。その第1弾が「肘折温泉〈灯笼〉プロジェクト」。山形県大蔵村肘折温泉の開湯1200年祭の期間中、日本画コースの卒業生が和紙に描いた肘折の風景やイメージを灯笼として旅館の軒先に飾り、古き温泉場の夏の夜を美しくライトアップしています。その肘折らしさを表現するにあたり、日本画コースの卒業生（現・大学院生）たちが6月に肘折温泉を訪れ、1泊2日の滞在で肘折のさまざまな魅力を深呼吸。それぞれが感じた肘折をスケッチブックやカメラ、そして脳裏に収めて持ち帰り、日本画として仕上げた作品が温泉街のメインストリートに掲げられているのです。肘折の美しい自然景観に心惹かれる者、年

季のいった町並みに関心を寄せる者、湯治場ならではの人と人のふれあいに好奇心をのぞかせる者……。そこには、より自分らしく肘折を表現しようと感性を研ぎ澄ませていく学生たちの姿がありました。さらに、自らの感性だけではなく、地元の人々の想いも大切にしなければと、宿泊先の旅館のご主人や女将さんに話を聞くなど、取材活動にも余念がありません。いままさに、その集大成が肘折の街を照らしているのです。ぜひ、伝統と新風の調和のほどを目にしていいただきたいものです。また、今回、肘折温泉の中心部にある公共浴場「上の湯」のリノベーションも行われ、その設計は建築・環境デザイン学科の竹内昌義准教授と竹内ゼミの学生が担当。みんなが気軽に集い、温泉や交流が楽しめる明るい社交場へと生まれ変わる予定です。



昔ながらの共同浴場「上の湯」も老朽化が進み、ただいまリノベーション進行中。竹内ゼミと地元の職人さんの手により、上の模型のような明るく心地よい共同浴場に生まれ変わろうとしています。

HIJIORI LOCATION MAP ●：灯笼設置箇所

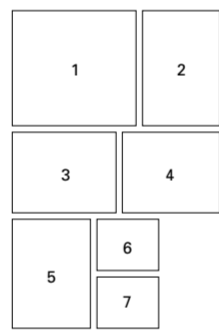


小松湖 肘折温泉を流れる銅山川下流の小松湖は、樹影と白波が美しい、大蛇伝説の残る景勝地。

旧郵便局 温泉街の中心にある旧郵便局は、ちょっとモダンな木造建築。誰もがふと足を止める。

秋葉山 秋葉山神社の石碑には、秋の紅葉は火災を連想させると「秋」の偏と旁が逆にと刻まれている。

温泉ドーム 温泉が噴き出す様子が見られる源泉ドーム。ここに腰掛けると腰や背中があつたまる。



1：地元の人々とのふれあいに創作のヒントを求めて。温泉街を散策する日本画コースの学生たち。2：自然の中に題材を見つけてスケッチに熱中する学生。3：三川町の「組子」職人に灯笼模型のプレゼンテーションをする竹内ゼミのメンバー。4：「上の湯」リノベーションに関する竹内ゼミでの打ち合わせ風景。5：スケッチをもとに本番の和紙に丁寧に絵を描く。6：肘折温泉の風景をモチーフとした灯笼の絵柄が完成。7：担当の番場准教授とともに完成した絵柄を並べて披露。

灯笼プロジェクト * 旅館の女将さん

肘折をより深く知るために、地元の人々とのふれあいも。

今回の〈灯笼〉プロジェクトに参加した日本画コースの卒業生は約20名。いくつかの旅館に分宿し、1泊2日の取材旅行を敢行しました。かつてはよく画家や作家たちが温泉地に滞在して創作活動に励んだといいますが、その気分をほんの少しだけ味わえたようです。この日、大学院生の竹田さんと中田さんがお世話になったのは金魚がトレードマーク

の「西本屋」さん。昔ながらの湯治の宿として、こんこんと湧き出る源泉かけ流しの温泉と山間の幸を使った体にやさしい料理でもてなしているのだそうです。この旅館の女将さんも〈灯笼〉プロジェクトには、大きな期待を寄せているようで、「うちに泊まった学生さんたちは、温泉街周辺をずっと散策されていたようで、帰ってきてからも熱心にスケッチの筆を進めていました。若い方たちが昔ながらの肘折温泉の良さをどんな風に絵にしてくれるのか楽しみです」と話していました。今回のプロジェクトで女将さんと芸術の距離は確実に接近したことでしょう。

到着早々、女将さん（西谷栄久子さん）と和やかに言葉を交わす大学院生の中田朝乃さん（写真左）と竹田陽子さん（写真中央）。



西本屋 特に、中高年の方に人気の湯治宿。絵心のあるご主人が描いたという金魚の絵と金魚湯・岩風呂に癒やされます。

「東北ルネサンス・プロジェクト」始動、第1弾は in 肘折温泉。

今ここに「東北ルネサンス・プロジェクト」が始動しました。東北に埋もれた詩や小説、哲学など、人と思想をひとつひとつ掘り起こしながら、東北ルネサンス運動に新たな大きな流れを作り出すことを目指します。山形市を中心としながら、仙台市にも拠点を置き、シンポジウムや公開講座などを通して文化の交流拠点として定着させていきたいと思っています。その第1弾として動き出したのが、プロジェクト in 肘折「肘折温泉街まるごと美術館」であり、その一環として実施されて

いるのが〈灯笼〉プロジェクトです。私が山形県で初めて訪れた場所が肘折温泉であったことなど、さまざまな縁に導かれ、この地からのスタートとなりました。今後アートのある温泉街のイメージづくりのために、本学大学院生による個展などを予定しています。さらに、仙台での仙台市在住の直木賞作家熊谷達也氏や村山由佳氏らを講師に迎える小説家養成講座等の開講や「東北遺産」／「東北文学」という雑誌の創刊に向けても準備が着々と進められております。引き続きご注目ください。WEB



5月21日、プロジェクト in 仙台の第1弾となる公開講座が行われました。作家の高城高氏、直木賞作家の遠坂剛氏、文芸評論家の池上冬樹氏が日本ハードボイルド文学の黎明期について語り合いました。今後も著名な作家による講座を予定しています。



「東北ルネサンス・プロジェクト」の立ち上げに際し、熱い思いを語るプロジェクト推進委員・運営委員の赤坂憲雄教授（東北文化研究センター所長）。

「肘折温泉」っていったいどんなところ？



山形県大蔵村、その中でもひととき自然豊かな山間に「肘折温泉」があります。昔、肘を折った老僧がこの温泉に入って治ったことから命名されたという「肘折温泉」。今年が開湯1200年という歴史を誇り、古くから近隣の人々の湯治場として、また出羽三山参拝の宿場としてにぎわってきました。いまでも温泉街には朝市が立ち、浴衣姿の湯治客が下駄で行き交い、変わらぬ温泉情緒にあふれています。

〈灯笼〉プロジェクト 『ひじおりの灯』



点灯期間：2007年7月13日（金）-8月20日（月）18:30 - 21:00
会場：山形県大蔵村肘折温泉
主催：東北芸術工科大学 東北ルネサンス・プロジェクト実行委員会
共催：肘折地区
監修：赤坂憲雄 / 森繁毅
デザイン：竹内昌義 / 建築・環境デザイン学科竹内ゼミ
制作：庄内木工技術研究会（組子制作・代表：柿崎光雄）
下山普行（金属鍛造）/三浦一之（月山和紙）
制作協力：山形県工業技術センター庄内試験場
作画：番場三雄（作画指導）/高橋誠/金子富之/土ヶ端大介/竹田陽子/木村夏子/長谷部浩志/中田朝乃/古田正洋/亀岡里美/一條好江/一ノ瀬綱子/小田倉由紀/尾坪大輔/佐々木綾子/設楽雅美/高倉未知/田口緒里砂/廣瀬直子/吉岡妙/鬼塚聖太（日本画コース）
企画コーディネート：宮本武典
企画：東北芸術工科大学美術館大学構想室
お問い合わせ：tel.023-627-2043

HEADLINE

子ども芸大 * パン屋さん



HEADLINE



「シャルマン」の奥さま、岩田紀子さんは、アロメインストラクターであり、栄養士でもあります。食の安全・安心にこだわり、食育にも大変熱心な人です。

シャルマン

天然素材にこだわった安全・安心なパンで人気のパン屋さん。「特に子どもたちには、体にいいものだけを食べてほしい」と今回の企画にはいち早く賛同。



〒990-2413 山形県山形市南原町 2-7-28 TEL・FAX 023-624-6622 営業時間：平日 7:30-19:00 祝日 7:30-19:00 日曜定休 http://www.pipi.org/charmant/

子どもたちの粘土細工がそのままパンになって店頭。

子ども芸大の子どもたちと街のパン屋さんによる小さな小さな産学共同事業。おいしいオリジナルパンが、人と人、街と芸術、人と芸術を結んでいます。

今年の3月、山形市内のパン屋さんの店頭にとってもユニークなカタチのオリジナルパンが並び、たちまち人気商品のひとつになりました。そのパンを焼き上げて、いるはもちろんプロのパン屋さんですが、そのカタチはというと、どうも大人たちの創造力をはるかに超えた独創的なものばかり。それは、子ども芸術大学の子どもたちが自由な発想で創り上げた粘土細工を基にしてパン生地を形づくり焼き上げたものだったのです。オリジナルパンになって店頭並び、子どもたちの父兄や親戚、知人の中で話題になると同時に、店頭でそのパンを目にした一般のお客様さまや子どもたちの間でも、さまざまな反響を呼んでいるようです。この街のパン屋さん子どもたちのコラボレーション企画の仕掛け人は、「子ども芸術教育

研究センター」の松田道雄准教授。駄菓子屋文化に詳しい松田准教授は、昔、駄菓子屋のおばあちゃんが子どもたちから若さや元気をもらっていたように、子どもたちの作品を何らかのカタチで街に流通させることで、大人たちにほのぼのとした何かを感じてもらえたらと考えたのだそうです。そこで、もっともカタチにしやすいパンで挑戦してみること。芸工大周辺のパン屋さんに声を掛け、即座に賛同してくれた「シャルマン」が第1号の協力店となったのです。月替わりで5人の作品が商品化されて店頭に並び、この企画は、8月まで実施されています。安全・安心のおいしさや芸術的なカタチ、焼きたてが一番だけど、しばらく飾って眺めてから食べたいようなパンたちです。

WEB



これが話題の子ども芸大のパン。おひさま？どうぶつ？のりもの？くだもの？自由奔放に創られた作品にタイトルはありません。どうぞ自由に想像して召し上げ。

g*gリスペクト 「蔵プロジェクト」の出発点はここにあった。

建築・環境デザイン学科の学生だった宮森さんは山畑ゼミに所属、山形市内の「蔵」をテーマとする卒業研究に取り組んだ。



●山畑先生へひとこと 山畑先生、お元気ですか。学生時代は大変お世話になりました。特に、「蔵」の研究では、私の考えがなかなかまとまらない時も、それをしっかり受け止めて、さまざまなアドバイスを下さりましたね。お子様の話をする時の先生の笑顔がとても印象的でした。



宮森友香 Miyamori Yuka 山形県出身、建築・環境デザイン学科平成14年度卒業。「朝日町エコミュージアム」勤務を経て、この春より「伝国の杜・米沢市上杉博物館」勤務。

歴史あるものにひかれる人。だから、いまの仕事も真剣に楽しんでいる。

いまや芸工大を代表する活動のひとつとなった「蔵プロジェクト」。そのきっかけとなる蔵の研究を最初に始めたのが、この宮森さん。米沢から電車と自転車、あるいはバスを乗り継いで芸工大に通っていた宮森さんは、その通学路で町中になつたといえます。気さくな山畑教授のゼミは楽しかったものの、「蔵」という初めての題材に戸惑うことばかり。それが

後輩たちに受け継がれ、「蔵プロジェクト」という蔵主や地域の人々との連携による蔵の修復や利用活動にまで発展したことをとでもうれしく思っているとのこと。宮森さん自身は、卒業後、蔵の研究で培った地域の人々とのコミュニケーション能力を活かして、芸工大との関わりも深いNPO法人「朝日町エコミュージアム」に就職。朝日町の歴史や文化、自然については

かなり詳しくなつたといえます。すると今度は、自分の地元である米沢のことを何も知らない気がして、改めて米沢への興味がわいていったのです。運よくこの春から「伝国の杜・米沢市上杉博物館」への勤務が叶い、フロントスマイルとして訪れる人々の案内などを担当しています。歴史ある城下町米沢、現存する蔵も多く、宮森さんの探求心を刺激する素材には事欠かないようです。

芸工大OB * 教授

●宮森さんへひとこと 今年の春からは新しい職場でがんばっているようですね。「朝日町エコミュージアム」へは、学生たちを連れて何度か行きましたが、施設の紹介や説明、なかなか堂に入っていましたよ。蔵の研究をやり遂げた、あのシンの強さで地元米沢でも宮森さんらしい活躍を！



山畑信博 Yamahata Nobuhiro 神奈川県出身、建築・環境デザイン学科教授。気候風土と建築の関係、建物が再生する仕組みなど、古いものから新しいものまで幅広く日々研究。



1:蔵プロジェクトが最初に再生を手掛けた蔵であり、活動の象徴にもなっている「灯蔵・オビハチ」。2:アーティスト・イン・レジデンスの会場となった「蔵おのや」の座敷蔵。3:同じく「蔵おのや」の階段室。

その土地ならではの住居に強い関心、今までに巡った国々はおよそ60カ国。

口ひげがトレードマークの山畑教授は、気さくで話もおもしろい人気の先生。宮森さんが山畑教授のゼミを選択した理由も先生の人柄によるところが大きかったようです。そんな山畑教授の専門は、建築設計と建築構法。その土地の気候風土や文化による住まいの違いを知りたいと今までに訪れた国はおよそ60カ国。そのひとつが「蔵」だったわけだけ。蔵

という収納空間とだけ捉えがちですが、京文化の影響を色濃く残す山形には、座敷蔵という格式の高い蔵も少なくありません。それらが時代の変化や経済的な事情で取り壊されていく様子を残念に思っていたところに、蔵主さんからの要請もあって「蔵プロジェクト」が本格的に動き出したのでした。幸いなことに、芸工大は実にも多彩なものづくり集団。蔵を喫茶店として復活させる際、工芸の学生が食器

を作り、プロダクトデザインの学生が家具を作り、グラフィックデザインの学生がポスターを作り……、ほとんどが学内でまかなえてしまうという強みを発揮したのです。今後はさらに、蔵への興味喚起と補修を兼ねた漆喰の壁塗り体験といったイベントや外国人をも視野に入れた誘客企画なども考えられています。山畑教授の豊富な海外経験が「蔵再生」にさまざまなヒントを与えてくれることでしょう。

建築・環境デザイン学科

建築コース/ランドスケープコース/まちづくりコース



「建築、都市、自然をひと続きで考え、人間の本当の意味での「幸せ」を作る」ことが学科のテーマ。その土地の風土を活かし、地球環境や街づくりを考えながら、生活環境までデザインしていけたら、とても素敵だと思いませんか？ そんないきいきとした建築や活力があふれる街づくり、未来へつなげる魅力的な景観づくりが、この学科の大きな目標です。

みんなでエコを考える 幻想的なキャンドルナイト。



地球環境問題が深刻化する中、建築・環境デザイン学科の学生が中心のサークル「チームECO」は七日町商店街や行政と連携し、省エネを呼びかける「キャンドルスケープin山形」を開催しています。市の中心通りにロウソクを灯し、地球環境を考えるイベントで、今年は6月16日に開催。文翔館広場には、使用済みの牛乳パックを容器とする約1,000個のロウソクが灯され、人々が環境を見つめ直すきっかけとなりました。

山形の建築物がトレカに。楽しく集めて文化を学ぶ。



志村直愛ゼミでは、山形市の代表的な建築を集めた「山形建築トレーディングカード」を制作中です。建築とその歴史を分かりやすく人々に伝えるためにカードで紹介。山形駅舎や公共施設、学校、商店街など、カード1枚に1つの建築の写真と名称、建築年、建築様式などを掲載し、春までに約40種類を制作。楽しみながら建築が学べるこのカード、種類は今も増えて続けています。

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。

Soft Bank 813T, 811T

WEB

街で、会社で、学校や家庭で、人と人、人と情報を結ぶ携帯電話は、いまやどんなシーンにも欠かせない必須ツール。そんな携帯電話のデザインを担当し、工業デザイナーとして活躍しているのが芸工大のOB 鈴木さん。多種多様なケータイ機種の中から選ばれたデザインとは。そして、使いやすさに結びつく機能美とは。その試行錯誤の際に、彼のイメージの先にあるのはきつと、使う人々のこんな笑顔。

鈴木 毅 Suzuki Takeshi
宮城県出身、2002年3月デザイン工学部生産デザイン学科卒業。株式会社 東芝に勤務し、国内外向けの携帯電話のデザインを担当。入社2年目にしてデビュー作が商品化され、グッドデザイン賞を受賞。



モデル：美術科洋画コース 板橋芳理さん、近藤亜紀さん。撮影協力：Café Espresso

表紙のART

WEB



「ひじおりの灯」
灯籠デザイン：建築・環境デザイン学科竹内ゼミ

今年から肘折温泉街の夏の夜を幻想的にライトアップすることとなった「ひじおりの灯」。その灯籠の骨組みデザインと各旅館の軒先に飾るための金具の意匠を手掛けたのが、建築家・竹内昌義准教授とそのゼミ生たち。日本画コースの卒業生によって描き上げられた肘折情緒をより美しく灯籠として仕上げるために八角形の骨組みと、昔、肘折温泉街を飾っていたという雲をモチーフとした金具を提案。庄内の伝統工芸「組子」の職人さん等の協力により、見事な灯籠が完成しました。

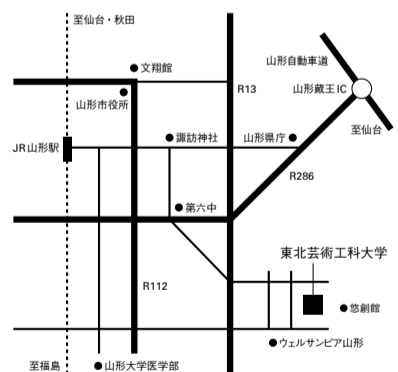
「g*g」とは?

リニューアルした芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインかっこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民なのです。そんな芸術市民のみならずと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
美術史・文化財保存修復学科
歴史遺産学科
美術科 [日本画/洋画(洋画・版画)/彫刻/工芸(陶芸・漆芸・金工・テキスタイル)]
- ◎デザイン工学部
プロダクトデザイン学科
建築・環境デザイン学科
情報デザイン学科 [グラフィックデザイン/映像]
メディア・コンテンツデザイン学科
- ◎大学院芸術工学研究科
博士後期課程 芸術工学専攻
修士課程 [芸術文化専攻/デザイン工学専攻/
デザイン工学専攻 仙台スクール]
- ◎研究機関
総合研究センター/東北文化研究センター/文化財保存修復研究センター/こども芸術教育研究センター/デザイン哲学研究所/東アジア芸術文化研究所/社会芸術総合研究所

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2007年7月10日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上杉田3-4-5
東北芸術工科大学広報担当
TEL: 023-627-2000 FAX: 023-627-2185
WEB: www.tuad.ac.jp/m/
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co.,ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2007

OPEN GALLERY

SHORT REVIEW

あなたの作品、寸評室。

出品者募集!

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けてみませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしく的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。 FAX:023-627-2185 E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp
※申し込みを複数頂戴した場合には、大変勝手ながらこちらにて選考をさせていただきます。結果は、取材希望の連絡をもって発表にかえさせていただきます。ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。



「茶道具」 変わり塗りを施した棗と茶杓



芸工大のOGでもある中村彩子先生のアトリエでの和やかな漆教室風景。

●出品者

横山裕子 Yokoyama Yuko

仙台市在住。家に昔からあって長年使われていなかった漆の家具や器が見事に再生したことに感動し、それ以来、すっかり漆塗りに夢中という横山さん。漆芸を習い始めて2年目ながら、とても熱心に制作に取り組み、仕上げた作品も少なくない。今回は、横山さんの第2作となる丸盆と棗(なつめ)、茶杓の評価を小林先生に託した。



●寸評

小林伸好 Kobayashi Nobuyoshi

芸術学部美術科工芸コース教授。東京芸術大学大学院美術研究科工芸専攻(漆芸)修了。国際デザインコンペティション特別賞、漆の美展日本漆工協会会長賞等、多彩な受賞歴。仕事の暇を見つけては山形の自然を満喫。また、漆の調査で山に入る事も多い。



芸工大の公開講座で初めて漆塗りを体験した横山さん。現在は、芸工大のOG中村彩子さんの漆教室に通っています。本人の満足度は百点満点というこの作品、さて先生の評価は?

仙台市にお住まいの主婦・横山さんは、自らも漆塗りに挑戦したいと必死で漆教室を探したそうです。しかし、趣味としては陶芸のようにメジャーではないため、なかなか見つからず、やっと見つけて夢中で申し込んだのが、芸工大の公開講座。どこにある大学かも知らずに申し込み、あとでお隣山形県の大学と知り、どうやって通おうかと

考えたというのですから、その必死ぶりがうかがえます。そんな横山さんが、芸工大の公開講座で制作した菓子器と茶托に次ぐ2作目が、この棗と茶杓、そして丸盆(WEBで紹介)。彩子先生の指導のもとで制作した作品を、彩子先生の恩師である小林先生はどのように評価するのでしょうか。

小林教授 これは、津軽塗りに代表される変わり塗りでですね。さまざまな色の漆を塗り重ねて、最後に研ぎ上げることで、ランダムに色が現れてこのような独特の模様仕上がるわけです。2作目でこの出来栄とは、がんばりましたね。色合いがまた女性らしくていい。私たち男性にはなかなか

出せない優しい色づかいですよ。丸盆の内側の端は研ぎにくくて難しいんですが、とても丁寧に仕上げられていますね。それに、棗の蓋の裏側に紋が入っているのがいい。中心からちょっとずれているのもご愛敬。こういうものの内側に模様を入れるのは意外に難しいのに、よく挑戦しましたね。中村さんの指導がいいのかな。今後も、初めから無理と思いつくことなく、木や金属などいろんな素材に挑戦してみたいでしょう。この茶道具でお茶を楽しむように、自分で作った世界にひとつだけの作品を使う喜びは何物にも代えがたいものですから。

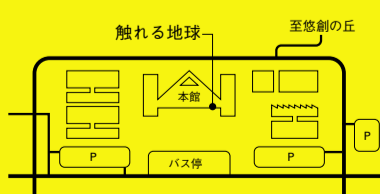
WEB

WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉。



「触れる地球」の考案者である京都造形芸術大学竹村真一教授をお招きして、学生に対して地球儀を使いながらこれからの地球環境について考える特別講義なども定期的に開催しています。



地球儀型体感ディスプレイ

触れる地球

芸工大の「触れる地球」に気軽にタッチしてグルグル回して、地球の科学を体感してみませんか。「触れる地球」とは、昼と夜の境界線や雲の動き、環境の変化など、地球全体の様子をダイナミックに眺められるマルチメディア地球儀。直径1.28m、1/1,000万スケールの地球上にオーロラやエルニーニョ現象、時代の変化による地球温暖化や大気汚染の様子を表示できます。また、クジラの回遊や渡り鳥の移動ルート、衛星の目で地球表面の様子を見ることもできるのです。気分はまるで宇宙飛行士か渡り鳥、宇宙からのグローバルな視野で地球を眺めることで、新たに気づくこと、感じることもたくさんあるはず。あなたが知りたい地球の今にアクセスしてみませんか。「触れる地球」は本館1階のオープンエリアにあり、月～金曜日の午前9時から午後5時まで、土曜日の午後9時から正午まで、だれでも自由に見学できます。団体・グループでのご利用の場合、事前にご連絡いただければ、操作方法の紹介やデモンストレーションなども行います。どうぞ有効にご活用ください。

※大学の休日および催事等による閉鎖の場合はご覧いただけませんのでご了承ください。



CLICK HERE!

WEBでさらにg*gツウになろう。

本誌g*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへの申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/gg>

<http://gs.tuad.ac.jp/gg>

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE **WEB**

7/13-8/20

昔ながらの温泉街の新・風物詩へ

大蔵村折温泉における開湯1200年祭の期間中、情緒と街区造を活かした景観のデザインを展開します。『ひじおりの灯』

会期:7月13日(金)ー8月20日(月)

主催:東北ルネサンス・プロジェクト実行委員会
共催:肘折地区

7/18

直木賞作家のトークに何を見出すか

『箕を語る』と題し、東北ルネサンス・プロジェクト in 山形の講演会として開催

『直木賞受賞作家 熊谷達也講演会』

日時:7月18日(水) 18:00ー20:00

場所:410教室



7/18-27

石や木、石膏に込められた思いとは

彫刻コース2~4年生27名による作品展です。昨年までの「春のかたち展」は展示名を「彫刻(かたち)展」と新たにし、意欲あふれる参加者が集まりました。石や木や石膏などの素材にたくさんの時間と思いを込めた作品をぜひ観覧下さい。

『彫刻展』

会期:7月18日(水)ー27日(金) 9:00ー17:00
(23日休館)

会場:悠創館ギャラリー

会期:7月17日(火)ー27日(金) 9:00ー17:00
(日曜休館)

会場:本学エントランスホール

7/26, 8/5

感性豊かな子どもたちに心地よい場所

こども芸術大学の理念や教育方針などを説明。日常の活動の様子を映像も交えながら紹介。

『こども芸術大学 平成20年度学生募集説明会』

日時:7月26日(木) 10:30ー11:30 /

8月5日(日) 11:30ー12:30

募集対象:平成16年4月2日から平成17年4月1日
生まれの子どもとお母さん

8/1

ライブで味わう津軽三味線の情熱

『山上進津軽三味線リサイタル』

日時:8月1日(水)

場所:水上能楽堂伝統館

8/1-11

23回目の卒業シリーズにエールを送ろう

東京事務所企画の卒業生シリーズ23回目は、2006年度大学院洋画領域修了の近藤浩平さんによる個展。

『卒業生シリーズ23 近藤浩平展「遠廻り」』

日時:8月1日(水)ー11日(土) 9:00ー18:30 (土曜11:00から/最終日17:00まで/日曜休館)

会場:東京サテライトキャンパス

8/2

決して操られることのない本物の感動

『結城座古典公演ー江戸系あやつり人形芝居』

会期:8月2日(木)

場所:水上能楽堂伝統館公演

8/5

子どもたちの大好きなドキドキがいっぱい

大学のキャンパスは発見がいっぱい。散策しながら、ミニワークショップを体験。

『こども芸術大学オープンキャンパス2 芸工大探検「アートなお散歩」』

日時:8月5日(日) 10:30ー15:30

定員:各回15組程度

対象:平成15年4月1日ー平成17年4月2日生まれの親子(申込み多数の場合は抽選)



8/5-6

芸工大のキャンパスライフまるわかり

『OPEN CAMPUS 2007』

日時:8月5日(日)ー6日(月) 10:30ー16:00

場所:東北芸術工科大学キャンパス

※予約不要。入退場自由。ランチ無料。午後からの参加もOK! 山形・酒田・鶴岡・仙台・福島・盛岡・秋田の各駅から無料バスを運行。学科コースを体験できるワークショップや作品展示、サークルパフォーマンスなど面白い企画で皆さんの参加をお待ちしています。在学生との学生生活相談、入試についての相談もあります。



8/11

文芸の分野でも東北ルネサンス始動へ

『東北ルネサンス小説家・ライター講座』

講師:茶木則雄+池上冬樹

日時:8月11日(土) 13:30ー15:30

場所:エル・パーク仙台セミナーホール2

9/11

伝統の漆芸に挑戦できる稀少な講座

『漆芸蒔絵講座 全10回 ~漆芸に挑戦~』

申込締切:9月11日(火)

日時:10月6日ー12月8日の各土曜日 14:30ー17:00

講師:柳橋歩季、小林伸好

定員:10名(多数の場合は抽選。6名未満は中止)

受講料:35,000円

9/18

絵心を目覚めさせて、絵筆をとろう

『日本画講座(後期)全12回 ~初めての方でも描ける日本画に挑戦~』

申込締切:9月18日(火)

日時:10月13日ー12月2日の各土曜日 13:30ー16:30

講師:番場三雄、末永敏明、谷善徳、他

定員:30名(多数の場合は抽選。20名未満は中止)

受講料:50,000円



9/18-29

漆恋 また彼女は漆に心を奪われる

大学院工芸領域修了生を中心とした、漆芸家4人のグループ展

『漆恋 また、彼女は漆に心を奪われる また、彼女は漆に手をかけ、大人になる…シツレン』

日時:9月18日(火)ー29日(土) 9:00ー17:00 (土曜11:00ー18:30 /日・祝休館)

出品者:中村彩子/野中昭美/柳橋歩季/渡邊希

会場:東京サテライトキャンパス

9/20

独特の質感が創作意欲をかき立てる

『銅版画講座(秋)全6回 ~銅版画技法(エッチング)の制作と応用~』

申込締切:9月20日(木)

日時:10月13日、20日、27日、11月10日、17日、24日の土曜日 13:30ー16:30

講師:若月公平(美術科洋画コース教授)

定員:16名(多数の場合は抽選。10名未満は中止)

受講料:20,000円

9/22, 23

芸工大での充実の日々を伝えたい

『東北芸術工科大学 保護者会・懇談会』

〈東京会場〉

日時:9月22日(土) 13:00ー17:30

場所:東京サテライトキャンパス

〈仙台会場〉

日時:9月23日(日) 13:00ー17:30

場所:KKR ホテル仙台

対象:本学生保護者



9/24

観て聴いて、何かを感じる昼下がりです

『東北ルネサンス「ブージャー」上映会+関野吉晴講演会』

日時:9月24日 14:00ー17:00

場所:エル・パーク仙台ギャラリーホール

9/26-10/3

視覚に訴えて、心に訴えられたら……

情報デザイン学科映像コース3年生による作品展。演習や日頃の成果を活かした、写真、ビデオ、CG、立体物などの作品約30点を展示、上映。

『映像コース3年生展』

日時:9月26日(水)ー10月3日(水) 9:00ー19:00

(土曜日は17:00まで)

会場:7階ギャラリー、図書館2階 AV ルーム

10/6-7

何が飛び出すか、年々期待膨らむ大学祭

東北芸術工科大学「大学祭」

日時:10月6日(土)ー7日(日) 10:00ー20:00

場所:大学キャンパス



10/12

無関心ではられない、環境の話、未来の話

環境は、人間をとりまくさまざまな事物や現象の総体。いくつもの異なる見地から視線を向け、それらを束ね合わせるように環境を読み解くことが私たちに求められています。

『「新・環境的未來型」古谷誠章講演会』

講師:古谷誠章(ふるやのぶあき) 建築家

日時:10月12日(金) 18:00ー20:00

受講料:一般1,000円/他大学生500円/高校生、学内者は無料

問合せ:建築・環境デザイン準備室

10/21

全国の高校生が、熱いバトルを繰り広げる

高校生の視点からとらえた“デザイン”を社会に発信する、入賞12チームによる公開プレゼンテーションを開催。高校生たちが問題発見能力、着眼点、分析力、発表訴求力、チームワークなどの“デザイン力”を競います。

『第14回 全国高等学校デザイン選手権大会 決勝大会』

日時:10月21日(日)

場所:本館201講義室

